



国道1号 静岡バイパスのストック効果※ ～地域の社会経済活動への貢献を目指して～

◆ お知らせ内容

国道1号静岡バイパス羽鳥・牧ヶ谷ICのフルインター化と鳥坂IC～千代田上土IC間の4車線化が平成27年3月1日（日）に開通し、6ヶ月が経過しました。

今回、静岡市内の物流企業ヒアリング調査を実施し、道路利用者の声を把握するとともにこれまでの整備が地域に与えた影響をとりまとめましたので、お知らせします。

今後も引き続き状況把握に努めてまいります。

- 事業概要
- 静岡市内企業の9割以上が効果を実感
 - ・効果の内容の内6割が走りやすさの向上を実感
- 今回開通に伴う交通利用状況の変化
 - ・静岡バイパスの所要時間が約4分短縮し、今回開通区間(上り)ではばらつきが約5分改善。
 - ・静岡市街地部の平均旅行速度が約21%向上。
- 全線4車線立体化へ向けて高まる期待
- 静岡バイパスが静岡地域に与えた影響
 - ・静岡バイパスが静岡の緑茶の輸出に大きく貢献
 - ・静岡バイパスを含む国道1号バイパス沿線に新たな物流拠点が立地

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

◇ 備 考 資 料：別紙：静岡バイパスのストック効果
解 禁：特になし
配布先：静岡県政記者クラブ、静岡市政記者クラブ

◇ 問合せ先 国土交通省中部地方整備局 静岡国道事務所

副所長 新堂 一郎

計画課長 加藤 正臣

電 話 (054) 250-8900 (代表) F A X (054) 252-5747 (代表)

※同様の内容は下記HP「記者発表一覧」で後日ご覧いただけます。

静岡国道事務所HP→<http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukoku/> 又は しずこく 検索④
幹線道路の異状を発見したら・・・ 道路緊急ダイヤル 緊急通報#9910 (24時間受付)

事業概要

- ・国道1号静岡バイパスは、静岡市街地を通過する国道1号の交通を迂回させ、市内の日常生活における利便性の向上・交通混雑の緩和・交通安全の確保を図る、延長24.2kmの幹線道路です。
- ・平成9年の全線暫定開通以降、順次「4車線化」を推進しており、**平成27年3月1日（日）に羽鳥・牧ヶ谷ICのフルインター化と鳥坂IC～千代田上土IC間が開通**しました。
- ・現在は、**牧ヶ谷IC～丸子IC間の4車線化（平成30年度完成予定）と清水立体化事業**を進めており、これらの整備により、清水港や東名・新東名などへのアクセス性がさらに向上し、**地域経済の発展へ寄与することが期待**されます。

《路線概要》

事業名	国道1号静岡バイパス
延長	24.2km
道路規格	第1種第3級 (一部第3種第1級)
設計速度	80km/h
車線数	完成4車線

《事業の経緯》

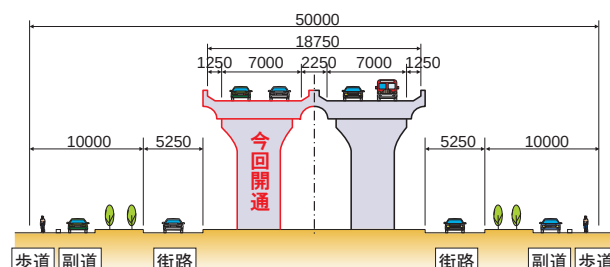
これまでの 開通経緯	平成9年3月	・全線暫定2車線開通 ※一部平面区間
	平成18年3月	・千代田上土IC～唐瀬IC間4車線化
	平成20年3月	・清水IC西～鳥坂IC間4車線化 ・昭府地区 暫定2車線立体化
	平成24年2月	・唐瀬IC～羽鳥IC間 4車線化
今回 開通	平成27年3月1日	・羽鳥・牧ヶ谷ICフルインター化 ・鳥坂IC～千代田上土IC間4車線化
	平成30年度（予定）	・牧ヶ谷IC～丸子IC間4車線化 ・清水立体化事業
今後の 予定	—	—

《広域図》



《標準断面図》

○橋梁部



今回開通区間

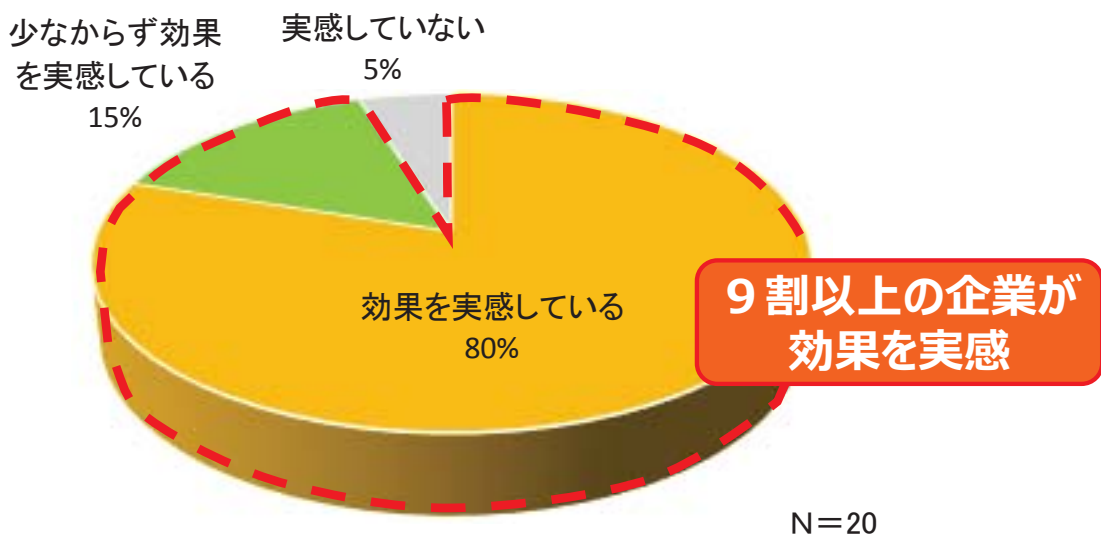


静岡市内物流企業の 9割以上が開通効果を実感！

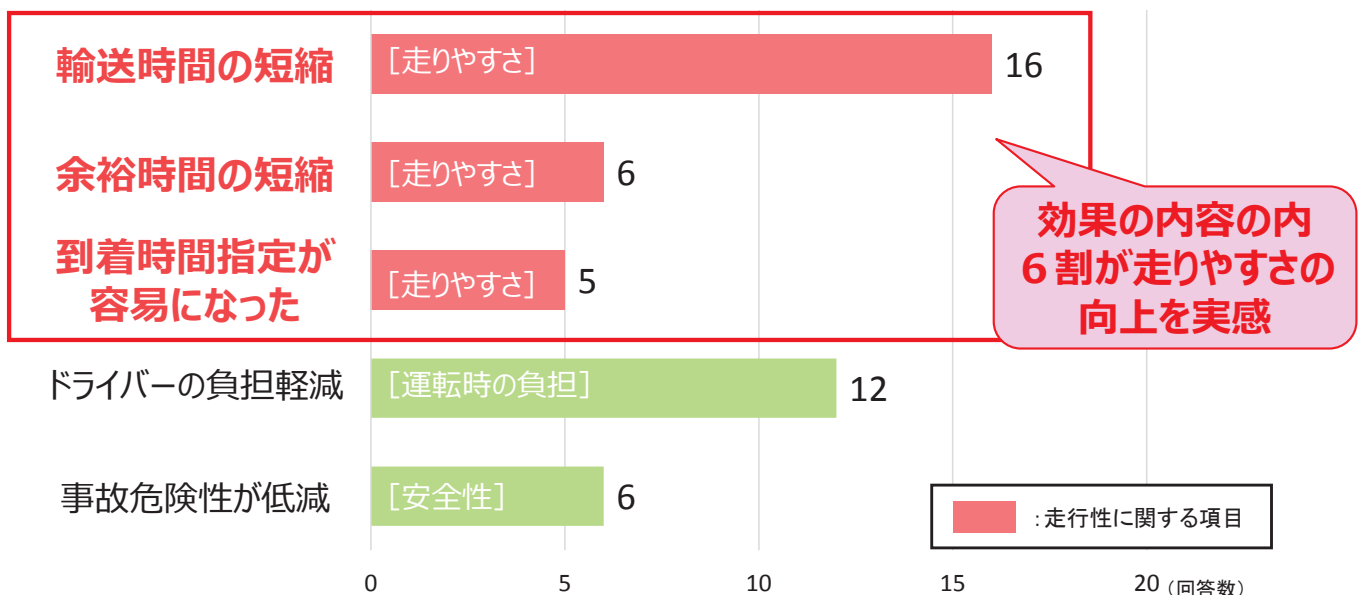
- 静清バイパス沿線に立地している物流企業の、**約9割以上の企業が今回の開通に伴う効果を実感**しています。
- 効果の内容の内、**6割が走りやすさの向上を効果としてあげています。**

《企業活動における開通効果について》

Q. 開通による効果を実感していますか？



Q. どのような効果を実感していますか？



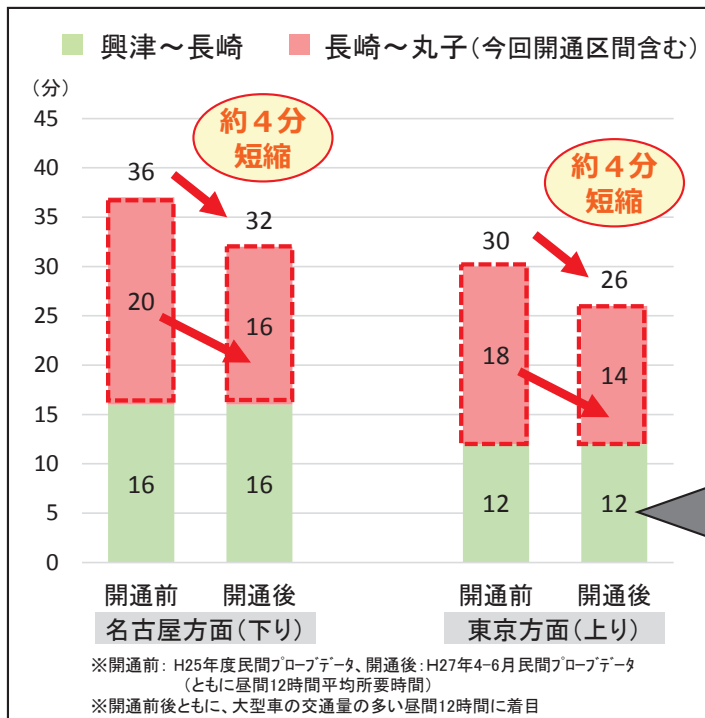
※開通後の企業ヒアリング調査結果より
(静清バイパス沿線の物流企業88社を対象、回答率23%)

N=19(複数回答あり)

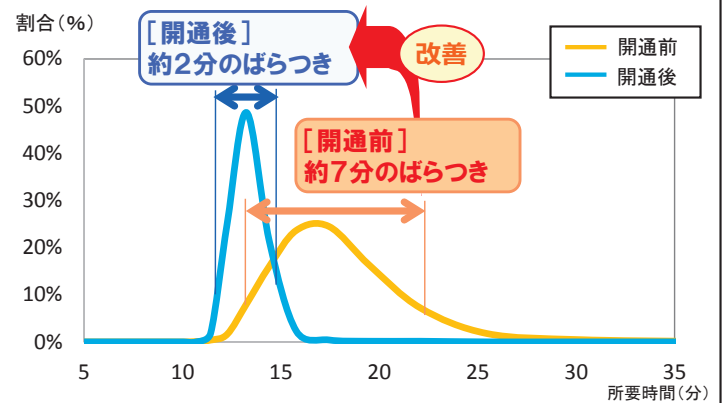
今回開通に伴う 交通利用状況の変化

- ・静清バイパス利用時の**所要時間が約4分短縮**し、今回開通区間（上り）では、所要時間の**ばらつきが約5分改善**されました。
- ・また、静岡市街の**平均旅行速度が約21%向上**し渋滞が緩和したことに伴い、静岡地域全体の速度サービス水準が向上しています。

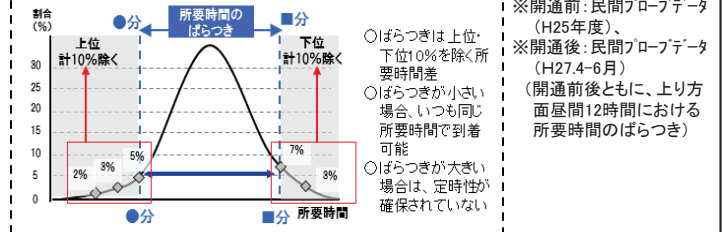
《静清バイパスの所要時間》



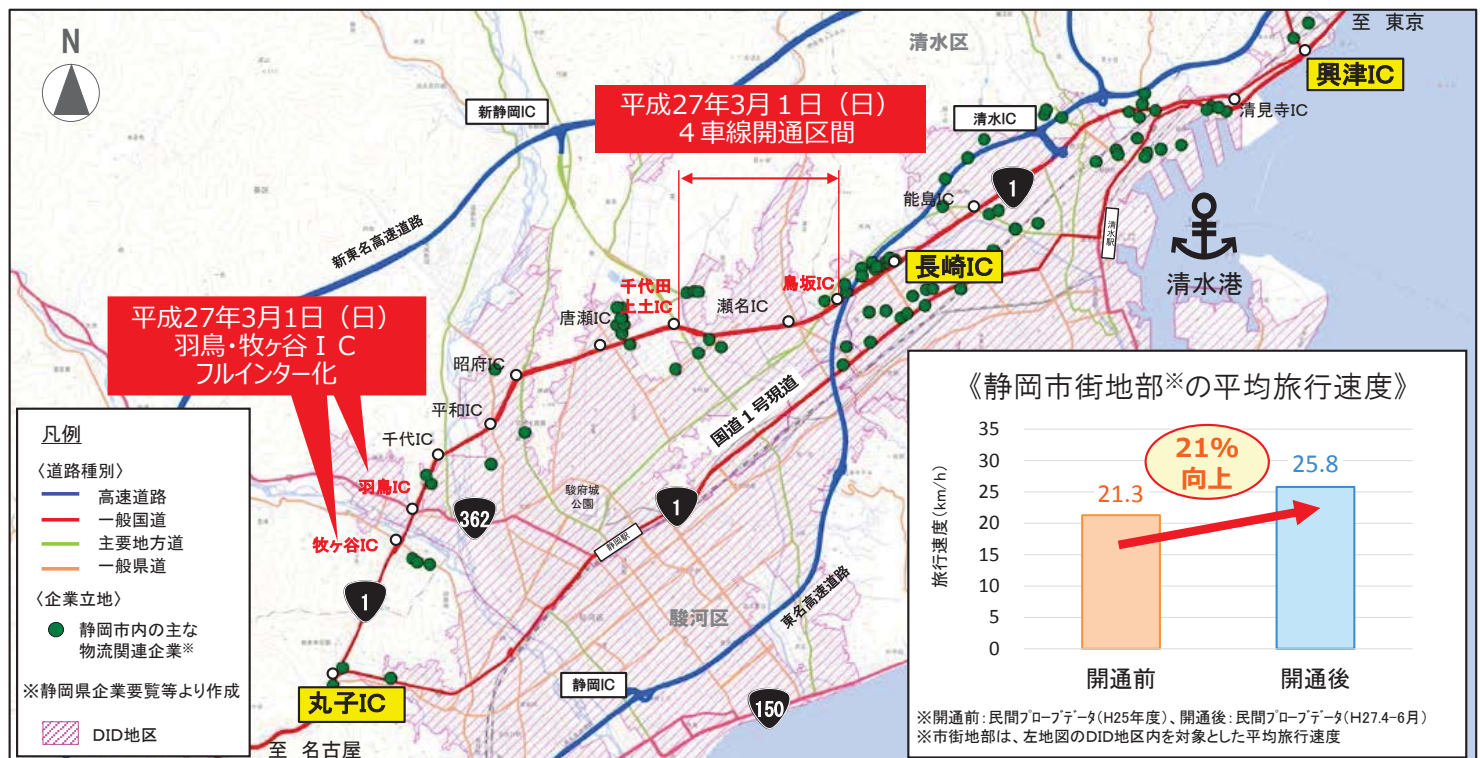
《丸子IC⇒長崎IC間(上り)の所要時間のばらつき》



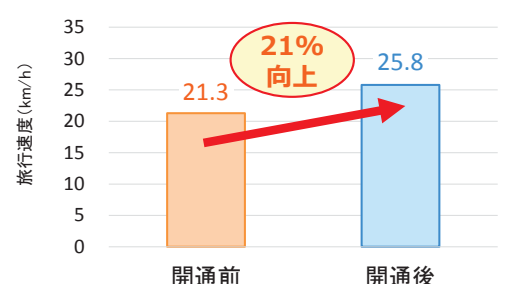
＞ 所要時間のばらつきについて



○交通状況の変化



《静岡市街地部※の平均旅行速度》

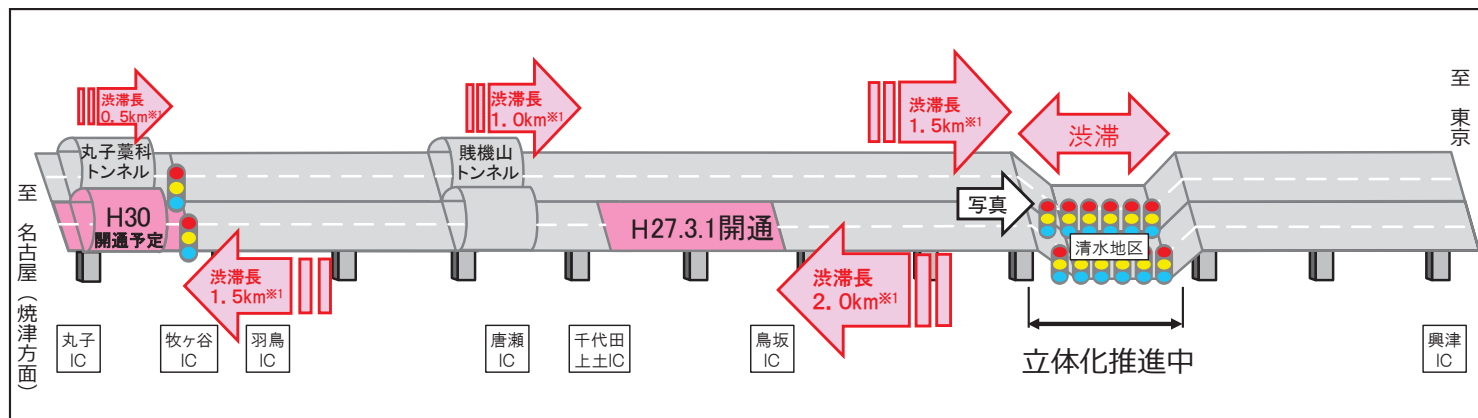


※開通前：民間プロブデータ(H25年度)、開通後：民間プロブデータ(H27.4～6月)
※市街地部は、左地図のDID地区内を対象とした平均旅行速度

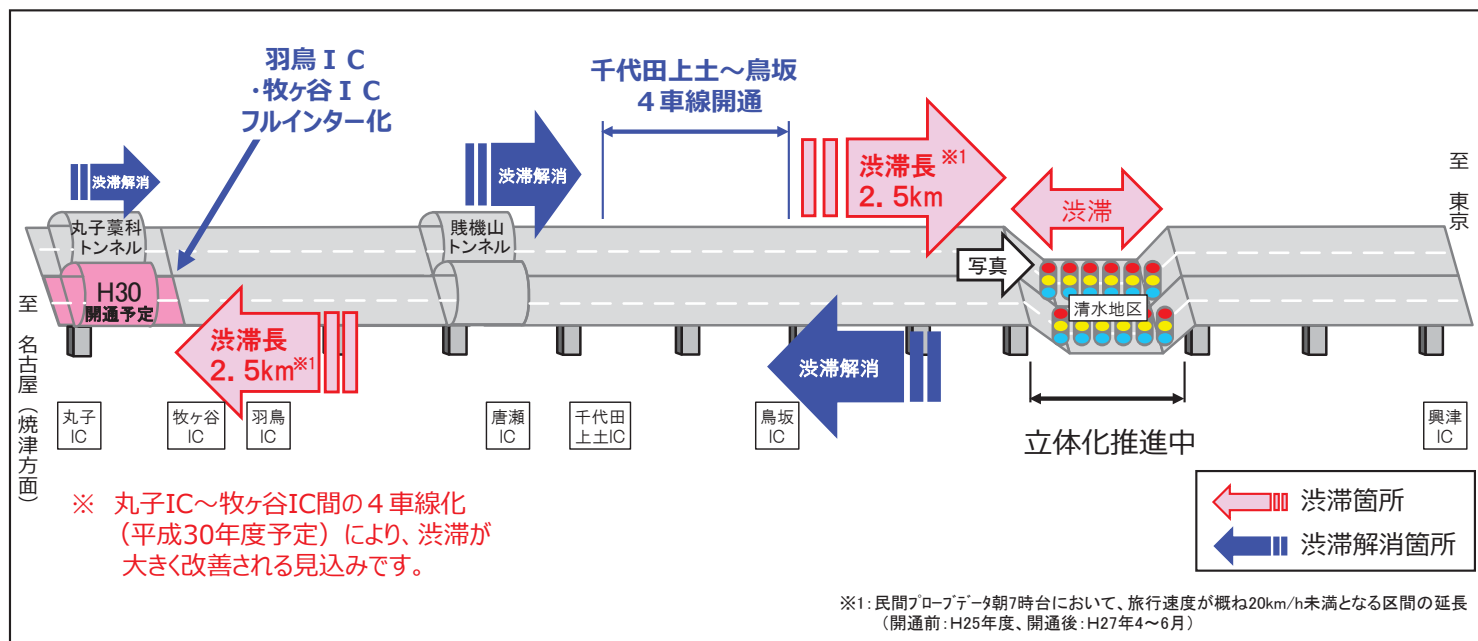
全線4車線立体化へ高まる期待！

- ・今回開通により交通量が約1割（約4,700台）増加しましたが、4車線立体化により、**牧ヶ谷IC（上り）、千代田上土IC（上り）、鳥坂IC（下り）の渋滞が解消**しました。
- ・引き続き渋滞が残る区間の**全線4車線立体化整備に期待する声**をいただいています。

《開通前の交通状況》



《開通後の交通状況》



《全線4車線立体化への期待》

・取引先が焼津方面が多いので、丸子IC～牧ヶ谷IC間を早期開通してほしい。



・朝の通勤時間帯に発生している清水IC周辺の渋滞がなくなると良いです。

※開通後の企業ヒアリング調査結果より

➤ 清水平面区間における渋滞



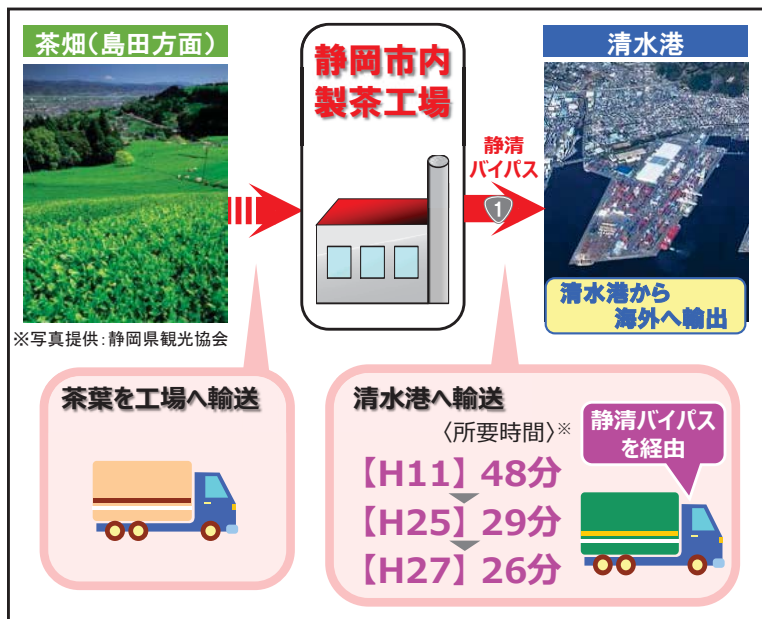
静清バイパスが地域に与えた影響① ～静岡の「緑茶」を世界に発信！～

- ・静岡県は全国1位の緑茶生産量を誇り、近年、海外への輸出が大きく増加しています。
- ・これまでの静清バイパスの整備によって、緑茶生産地から清水港への所要時間は大幅に短縮しており、静清バイパスが静岡の緑茶輸出に大きく貢献しています。

《清水港背後圏の変化》



《緑茶の海外輸出の流れ》

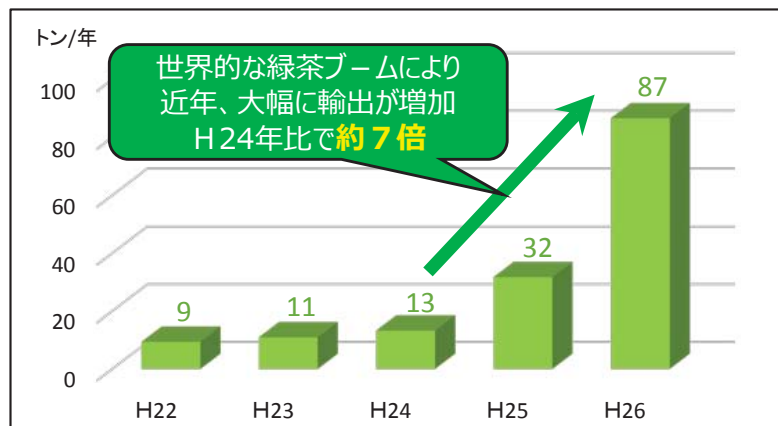


《静岡市内にある製茶企業の声》

- ・島田方面から仕入れた緑茶を清水港へ輸送する際に、静清バイパスを利用しています。
- ・今回開通により、清水港への輸送時間は短くなり利便性が向上しました。

※開通後の企業ヒアリング調査結果より

《清水港からの緑茶輸出量の推移》



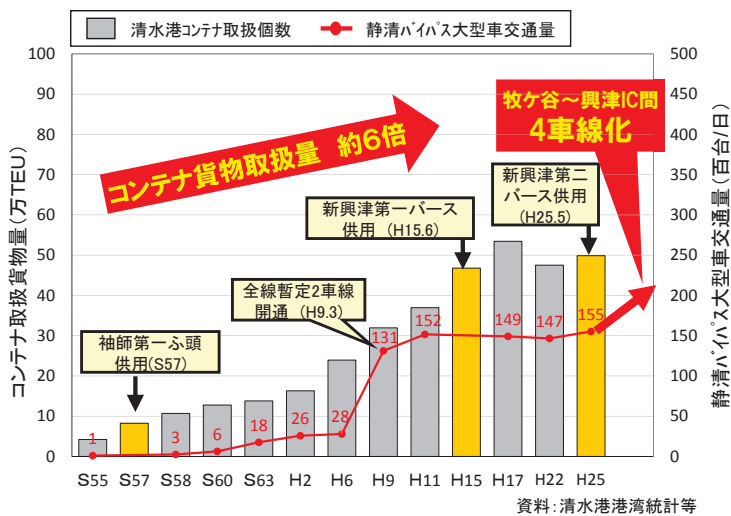
※出典：財務省貿易統計（清水港より輸出される緑茶の総量を集計）

～ 静岡の緑茶をPR！ ～

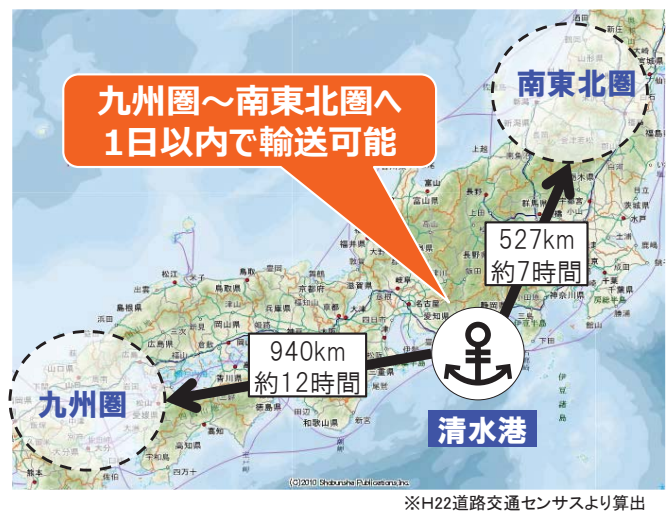


- ・静清バイパスと清水港の整備があいまって、清水港のコンテナ貨物量は30年で約6倍に増加しています。
- ・静清バイパスを含む国道1号バイパス沿線には、新たな物流拠点が立地しており、静清バイパスが清水港からの物流を支えています。

《静清BP大型車交通量と清水港取扱貨物量の推移》



《清水港の位置づけ》



《周辺地域に、新たな物流拠点が立地》



- ・清水港は南東北～九州まで1日で輸送できるため、**地理的なメリットが大きい**です。
- ・輸送時には**国道1号バイパス**を利用していますが、輸送時間が短縮することでコストが抑えられるため、企業にとって大きなメリットになります。

※開通後の企業ヒアリング調査結果より

